カード情報1人1万円

ダークウェブ

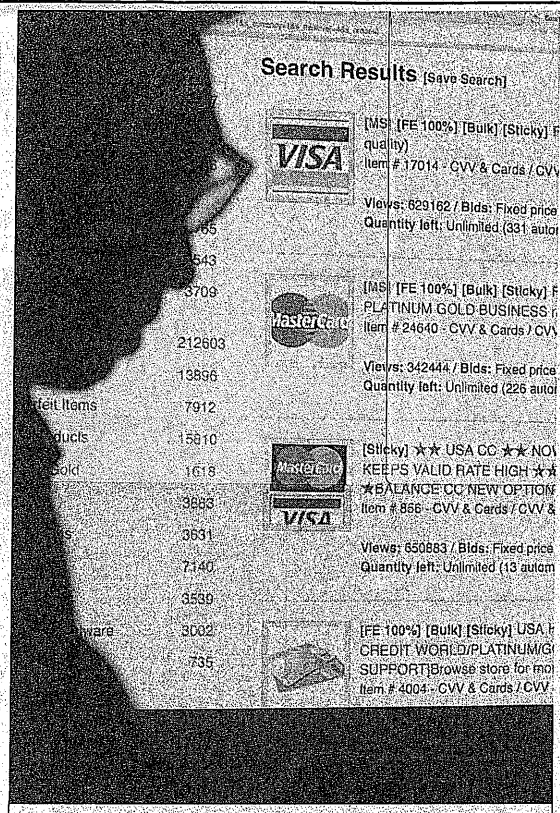
上

「あなたのクレジットカード情報が売られています」。北陸地方の40代男性は昨春、警視庁からの突然の連絡に驚いた。「誰が、どこで売っていたのか……」

売り主は岐阜市の男（30）だった。失業中の生活費を稼ごうと、他人のカード情報を転売することを思いついた。最初は一般的なインターネットの掲示板で情報を入手しようとしたものの失敗。しかし、「ダークウェブ」の存在を知ったことで状況が変わった。

ダークウェブのあるサイトで、1人分1万円程度で買うことができた。別のサイトで価格を上乗せして売りに出すと、買い手は次々に現れた。売り上げは4カ月で約450万円に達した。逮捕後の調べに「通常のネットの空間よりも効率的に売買できた」と供述した。

男は昨年7月、他人の口座から現金を引き出しず、犯罪の温床になっているとされる。そこで取引されるのは個人情報にとどまらない。



他人のクレジットカードやウイルスなどの情報が売買される「ダークウェブ」のサイト（東京都内のスプラウトのオフィス）

「あらゆる違法なものがそろっています」。東京都内にあるセキュリティー会社「スプラウト」のオフィス。高野聖玄社長がパソコンを操作すると、数十種類のコンピューターウイルスや麻薬、偽造免許証が並ぶ英語のサイトが次々と画面に表れた。

取引対象ごとに専門分化が進み、あるサイトには「殺人請負」の文言も。一般的な通販やオークションサイトと同じように、出品者の信頼度を評価するシステムを導入したサイトもある。競争の激しさは本物のネット通販業界さながらだ。

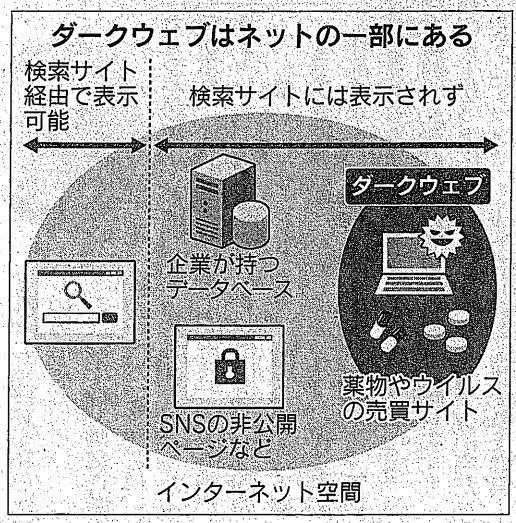
脅威は人々の暮らしや企業活動にも忍び寄る。イスラエルのセキュリティー会社の調査では、日本に本社があるクレジットカード会社の利用者約10万人分の情報がサイト上で売買されていた。「企業の経営会議資料や新製品の図面を確認したこともある」（高野社長）。情報は世界中からアクセスできる。

インターネットのサイトが犯罪行為に悪用される事例は過去にもあった。2007年には携帯サイトで知り合った男3人が女性を殺害する事件が発生。大規模な掲示板が取り締まりを強化したことで、違法行為の摘発も進んだ。代わって台頭したのがダークウェブだ。身元を隠すソフトと仮想通貨が普及し、通信と決済の両方で高い匿名性を保つことが可能になった。捜査幹部は「犯罪者が活動する舞台は表のサイトからダークウェブに移っている」とみる。

セキュリティー大手、トレンドマイクロの鰭目順介シニアスペシャリストは「今後日本語のダークウェブも増える。専門知識がなくても簡単にサイバー犯罪などに手を染められる環境が整いつつある」と懸念する。

◇

違法取引や犯罪の温床になっているとされるダークウェブ。増殖する闇のサイバー空間の実態を追う。

＝関連記事「暗黒ネット通販の品ぞろえ」を電子版に▼Web刊↓紙面連動

麻薬・企業機密まで売買